

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

令和2年4月25日現在

今月の重点活動

■ほうれんそう 推進会議を開催【スマート農業加速化実証事業】

今年度、高山市が国のスマート農業加速化実証プロジェクトの採択を受け、夏ほうれんそうのスマート農業化の取り組みこととなり、関係機関と実証農家の実証内容を検討するため、4月14日、高山市役所にて「夏ほうれんそう産地まるごとスマート農業化実証コンソーシアム」第1回会議が開催された。

本来ならば飛騨地域外のコンソーシアム構成機関（農機メーカー、IT企業）も一堂に会する予定であったが、新型コロナウイルスを考慮し、飛騨地域の構成機関のみ（飛騨ほうれんそう部会若菜会、JAひだ、高山市、中山間農業研究所、飛騨農林事務所）が出席しての開催となった。

農業普及課は、進行管理役として実証内容の調査を進め、ほうれんそう経営へのスマート農業技術の導入可能性について検証していく。



【実証内容について協議】

多様な担い手づくり

■担い手 就農に向けてパワーアップ！！～高山市長期研修生支援会議～

高山市就農支援会議では、研修1年目の長期研修生3名を対象に「高山市長期研修生支援会議」を4月16日に開催した。

長期研修生の自己紹介後、農畜産公社から研修の心構えや農地の確保について、農業普及課から就農計画作成や就農に至るまでの年間スケジュールについて、高山市から各種支援策や補助事業について説明した。また、各研修生の農地確保の現状や現在の研修内容などについて情報共有した。今後、1～2年間の研修を経てトマト経営を開始するまでに、指導農業士等受入農家による実践研修、11～2月開催の「飛騨就農支援塾」によるGAPや土壌診断、病虫害対策、農産物流通、植物の生理生態、ハウスの建て方等、就農に必要な知識の習得を目指している。農業普及課では研修生の状況確認を随時行うと共に、飛騨就農支援塾等の企画・運営に主体的に関わって支援する。



【就農に向け目標を語る研修生】

売れるブランドづくり

■水稲 大麦の生育状況

飛騨地域での令和2年産大麦は、高山市国府町、荘川町、大野郡白川村で約22haで作付されている。

4月15日現在、国府町の調査ほ場の生育状況は、暖冬で積雪もほとんどなかったことから、湿害もほとんどなく、平年より茎数(分けつ)も多い。草丈は32.5cmと平年よりも長く、生育も5日程度進んでおり、4月の終わりには出穂すると予想される。

農業普及課では、今後は赤かび病防除や適期収穫に係る情報提供等の支援を行っていく予定である。



【順調に生育する大麦】

■アスパラガス 目揃え会および栽培研修会を開催

飛騨市内のアスパラガス生産者からなる飛騨市アスパラガス研究会が、春芽出荷の本格化を前にした4月14日に目揃え会を開催した。目揃え会にはひだ高山中央市場の担当者も出席して新たな出荷規格について生産者らと協議し、特に太いアスパラガスを従来の規格とは区別して出荷することとなった。

その後、栽培研修会が実施され、農業普及課より灌水の方法や病害虫防除などアスパラガスの当面の栽培管理について説明した。

農業普及課では、今後も飛騨市アスパラガス研究会と連携しながら栽培研修会や巡回を実施し、高品質なアスパラ生産を支援していく。



【出荷規格を確認する生産者たち】

■夏秋トマト 3Sシステム 生育安定に向けた栽培技術支援活動を開始

農業普及課では、令和2年度トマト3Sシステム導入者(6戸(約55a))に対し、中山間農業研究所と連携して週一回の生育調査および飛騨版マニュアルに沿った栽培技術支援を行っている。

調査項目は排液のEC(電気伝導度、肥料濃度の目安となる数値)、硝酸イオン濃度及び葉柄中の硝酸イオン濃度で、今後の管理における給液回数やEC等の設定について技術支援している。

現在、すべての導入者で1段目が着果中、概ね生育は良好であり、今後も継続して支援していく。



【生育調査状況】

■夏秋トマト **土壌還元法による土壌処理の還元状態を確認**

高山市久々野地区の新規栽培者が実施している土壌還元法による土壌処理について、4月21日にジピリジル反応（還元状態で赤く呈色する）による還元状態の確認を行った。

当日は処理開始から2週間後で、処理後3日目の確認時より鮮明に呈色した。土壌還元処理が順調に行われたことを確認し、被覆撤去のタイミングについて栽培者と相談した。栽培者は今回の土壌還元処理の作業ノウハウを次年度以降に生かしていく予定である。農業普及課では、今後も新規栽培者への技術指導を行い、単収向上にむけた支援を継続して実施していく。



【還元状態の確認】

■小玉スイカ **播種計画会議を開催**

4月17日、JAひだ丹生川支店にて、小玉スイカの種まき計画会議が開催された。小玉スイカは主に東京方面へ出荷され、甘みが強く消費者から人気がある。

小玉スイカは定植後約60日で収穫期を迎えることから、安定した出荷のためには計画的な播種作業が必要になる。本会議では小玉スイカ生産者4名の播種日と播種数量について打ち合わせした。播種日、播種数量ともに例年並を予定しており、4月20日から5月30日にかけて播種作業が行われ、栽培畑への定植は5月中下旬ころになる予定である。農業普及課からは栽培マニュアルの内容について説明した。

今後、積極的に生産者ほ場を巡回し、安定出荷のための技術支援を行っていく。



【播種計画会議】